

紀小鹿女郎の梅の歌一首

一六四八番

十二月には 沫雪降ると 知らねかも 梅の花咲
く 含めらずして

大伴宿禰家持の雪梅の歌一首

一六四九番

今日降りし 雪に競ひて 我がやどの 冬木の梅
は 花咲きにけり

西の池の辺にいまして、 肆宴したまふとき
の歌一首

一六五〇番

池の辺の 松の末葉に 降る雪は 五百重降り敷
け 明日さへも見む